

「持続可能な社会」づくりの担い手をはぐくむ「ことばの教育」 広島県立広島中学校

1 活動概要

生徒が環境問題や人権問題などを地球的な視野で考え、それらの課題を自らの問題として取り組み成果をあげていくためには、「問題や現象の背景の理解」、「多面的かつ総合的なものの見方」をはぐくむことが必要であり、「体系的な思考力、批判力」、「データや情報の分析力」、「コミュニケーション能力」などの育成が欠かせない。これは「ことばの力」そのものであり、この力を育成するため、本校では言語技術を習得し活用する「ことばの教育」を各教科等で継続的に進めている。また、各教科等の学習をディベートやパネルディスカッションといった手法を用いて探究的な学習へと発展させている。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、「ことばの力」を総合的に活用する活動としてパネルディスカッションを行っている。パネルディスカッションは、複数の立場で一つの論題について協議を行う活動であり、ESDでねらう多面的・総合的な思考を行わせるのに適している。

事前準備としてデータや情報を集めたり分析したりして自分たちの主張をまとめ、複数の立場で論題（テーマ）に対する主張を行い、問題点や解決策を明らかにし、考えを深め合い共有していく。本実践は、「環境の尊重」といった「持続可能な社会」づくりに関する課題を設定し、自分のものの見方や考え方を広げ深めることをねらったものである。

(2) 指導のポイント

- ☆ パネルディスカッションやディベートの論題としては、「小売業の深夜営業」、「次世代自動車」といった生徒にとって身近なものであり、かつ環境の維持と経済の発展との関連を考えなければならないものといった、ESDで身に付けさせたい力に関連するものを選定する。（付けたい力1）
- ☆ パネルディスカッションでは、相手の立場を尊重しながら議論する態度を身に付けさせる。（付けたい力2）
- ☆ 論題について、どちらの立場がよい、あるいは正しいといった判断のみにこだわるのではなく、問題の解決に向け、多面的かつ総合的に考えることが重要であることを指導する。（付けたい力1）
- ☆ 様々な資料を活用し、客観的なデータに基づき、根拠をもって論理的に自分の意見を述べたり、他者の意見を聞いたりできるようにする。

3 学習指導案

◎本時の授業…本校では各教科の内容と関連させながら継続してパネルディスカッション等の取組を行っており、本時は社会科との関連を図って行う実践である。

(1) ねらい

- 相手の立場を尊重しながら、論題について多面的かつ総合的に考え、データや資料を活用して自分の考えを述べたり聞いたりすることができる。
- 「環境の尊重」という価値論題について、問題解決に向け、自分のものの見方や考え方を深めることができる。

(2) 対象学年 第3学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 目標と課題の確認 2 パネルディスカッションの論題を確認する。	・論題は、自分たちの生活に関わる問題の中から選ばせる。社会科の学習内容等と関連を図る。	
	論題 「低炭素社会を実現するために、優先すべきことは？」		
展開	3 パネルディスカッションの役割と流れを確認する。 役割：司会者、パネリスト、フロア 4 パネルディスカッションを行う。 (1) 司会者が、問題提起をする。 (2) 各パネリストが順番に主張を述べる。 (3) パネリスト相互で質問しあったり、意見を交わしたりする。 (4) フロアも参加し、協議する。 (5) 協議を受けて、各パネリストが再度主張を述べる。 (6) 司会者が討議をまとめる。	<p>例えば、次の三つの立場で主張する。</p> <p>A 環境面について ・自然を破壊せず、木を植えるなどの活動をするべきである！</p> <p>B 生活面について ・リサイクル活動やゴミをなくす活動をするべきである！</p> <p>C 技術開発面について ・地球に優しい技術やエネルギーを開発するべきである！</p> <p>・司会者には、次の点を留意させる。 ※意見の要点をメモしながら聞く。 ※質問の内容を考えて、他のグループにも問いかけ、広い範囲から答えを引き出す。</p>	<p>○データや資料を活用して、主張している。</p> <p>○相手の立場を尊重しながら、論題について多面的かつ総合的に考え、自分の考えを深めている。</p>
	5 それぞれのグループでパネルディスカッションを振り返る。 (1) パネルディスカッションの進め方を振り返る。 (2) パネルディスカッションの内容を振り返る。	<p>・司会者、パネリスト、フロアの役割ごとに、それぞれ振り返らせる。</p> <p>・論題の内容について、自分たちの考えが深まったか、視野が広がったか、今後どういう姿勢で臨んでいきたいか、などについて振り返らせる。</p>	
まとめ			

4 生徒の反応（授業後の感想等）

- 一つの立場からでは見えない問題点が多く出され、論題に対しての考えが広がった。改めて、この論題がもつ問題の重さについて認識が深まった。
- パネリストとして主張を行ったが、質問や別の立場からの意見をいただき、自分たちの主張をより深いものとすることができた。
- フロアから三つの立場の主張を聞いて、低炭素社会の実現のため、私たちにできることは何かについて、深く考えることができた。はっきりとした答えは出ないこの問題について今後もかかわっていく必要があると認識することができた。

